

令和5年度第1回 秋田市エイジフレンドリーシティ行動計画推進委員会 議事録

日 時：令和5年7月11日（火） 午後3時30分～5時

場 所：秋田市役所5階 正庁

委員の定数：13人

出席委員：11人

事務局：4人

議 事：

1 開会

2 議事

(1) 委員長および副委員長の選任について

委員改選後最初の開催につき、各委員の紹介後、委員長および副委員長の選出を行った。

(2) 第3次秋田市エイジフレンドリーシティ行動計画の進捗状況について

上記について、事務局から説明を行った。

(委員長) 議事の(2)について、ご意見や質問等はないか。

(委員) 評価について、基準を数値で表せるもの以外に、担当部局の主観などに基づいて評価している項目もあると思うが、交通政策課の事業が7つほどある内、一つもA評価がないのが気になっている。シニアアキカ事業など、個人的にはA評価でも良いと思う。

また、エイジフレンドリーパートナーづくり推進事業の目標値の事業者数170事業者、従業員数9,000人は実績値の131事業所、12,789人より4,000人近く少ないがこれはどういうことか。

(事務局) シニアアキカについては、市民からクレームを含む問い合わせ等も多くあったことから、担当課でB評価としたことが考えられる。またエイジフレンドリーパートナーづくり推進事業の目標値は、第3次行動計画の最終年である令和8年度での達成を目指した数値であり、令和8年度の目標に向けて、事業者数および従業員数が増加傾向にあったことからA評価としたものである。

(委員) 実績値131事業所、12,789人となっており、目標値では事業者数、170事業者に対して、従業員数目標値の方が、実績値より4,000人近く減るというところが理解しかねる。

(事務局) 令和4年度は、従業員数が4,000人近くいる事業所がパートナーとなったことから、従業員数が大きく伸び、令和8年度達成目標を大きく上回ったという状況である。

また、交通政策課の事業評価については、事業規模が大きいもの

が多く、A評価とするには難しいとして担当部局が評価したものである。

- (委員) パートナー事業の評価項目に従業員数は不要かと思う。
- (事務局) ご意見ありがとうございました。
- (委員長) 他にあるか。
- (委員) 資料9Pの110番高齢者等デジタル活用支援事業について、当センターでもプッシュ型の告知を会員に行っており、厚労省予算で、LINEを使ったシステム導入をしている。これまでは、電話やFAXを使っていたり、安否確認の意味合いも兼ねて業務終了後は書類を持参させていたが、これもLINEで行えるようになっていく。現在は、利用者のLINEアプリの取得等を、当センターで直接支援しているが、実際使用することができない高齢者が多い。そこで高齢者等デジタル活用支援事業の出張講座を利用できればと考えている。デジタル化推進本部へ直接相談するということが良いか。
- (事務局) デジタル化推進本部に直接連絡を取り、打ち合わせてほしい。事業チラシもあるので、必要であれば提供したいと思う。
- (委員) 資料2、4Pの33番緊急通報システムについて、C評価であるが、なぜ普及しないのか。先ほどの説明で、撤去数が設置数を上回っていると言っていたが、どのように広報しているのか。高齢者は増えているはずなので、もっと普及できるのでは。
- (事務局) 担当課からは、ホームページ等で広報しているが、現在はスマホの普及や民間会社での見守りサービスも普及してきており、希望者も減少しているとの話があった。しかしながら広報は続けていくとも聞いている。
- (委員) ホームページを見ることが出来ない高齢者も多くいるので、紙媒体での広報も重要かと思う。  
もう1点、8Pの75番ファミリー・サポート・センター運営事業について、私はこの事業が出来た時の、最初の利用者である。この事業は、支援者が直接家庭を訪問しサポートをしたりするものであると思うが、コロナの影響も少なからずあるが、時代に合っていない。保育園や幼稚園でも、理由を問わず一時預かりできているところが増えているので、この事業の運用の仕方自体を見直す必要があると感じているがどうか。

- (事務局) 庁内連絡の会議があるので、そこで話題に出したいと思う。
- (委員) 自分の家に見知らぬ方に来てもらうよりは、保育園や幼稚園などどこかに子どもを連れ出してその場所で見ってもらう方が安心感があると思う。
- (事務局) 協力会員の自宅やその会員が子ども未来センターなどで遊ばせるというのが主流で、援助を受けたい方の自宅に直接訪問することは、あまりないと聞いている。
- (委員長) 他にあるか
- (委員) 資料2の1Pの11番、交通安全施設等整備事業について。横断歩道のある場所に設置される標識や道路への標示がない箇所があるが、そういった設置状況も鑑みてのA評価なのか。歩行者優先が守られない場合が多々あるので、そういった整備も必要かと思う。
- (事務局) 事業自体には看板の設置も含まれているかと思うが、評価については、評価指標が基準となっている。  
それ以外のご意見に対しては担当課に確認後回答したいと思う。
- (委員長) 他になければ次の議題に移りたいと思う。

(3) エイジフレンドリー指標の実績について  
上記について、事務局から説明を行った。

- (委員長) コロナ禍の令和3年度などは、その影響で実績値が下がったものもあったかと思うがこれらは回復傾向にあるという認識であるか。
- (事務局) 令和4年度の実績値を見れば、下がったものもあるが、回復している項目もいくつかあった。
- (委員長) 他になければ次の議題に移りたいと思う。

(4) 令和4年度エイジフレンドリーパートナーの取組について  
上記について、事務局から説明を行った。

- (委員長) 議事の(4)について、現在のパートナー登録者数は136事業所とのことで、これまではパートナーの業種は建設業が多かったと思うが、新規のパートナーの業種の幅はどのように広がっているか。

- (事務局) 昨年度新規登録の事業者の、業種で目立つのは卸小売業で、具体的には大型総合小売店や、スーパーに店舗ごとに登録いただいた。そのほかは、市民活動団体や、情報通信業や医療関係など幅広く登録があった。
- (委員長) 業種の幅が広がってきた背景は。
- (事務局) 小売卸業の拡大については、昨年エイジフレンドリーシティのプロモーション事業として、スタンプラリーを開催した際に、こちらから直接呼びかけたものである。それ以外にも、HP等の情報や、すでにパートナーとなっている事業者からの紹介で登録を決めた事業者もあり、認知の方法も様々になっているように感じている。
- (委員長) 長く継続していることが効果として表れているのかと思う。

(5) 令和5年度の主な普及啓発について  
上記について、事務局から説明を行った。

- (委員長) 議事の(5)について、ご意見や質問等はないか。
- (委員) 3の実施済み事業の(1)市民公開講座についてですが、この講演はどのようなものであったか。
- (事務局) たくさんの市民の方に来ていただき、盛況であった。講演内容についても良かったとの声を多数頂いている。また英語での講演であったので、英語で聞きたいという人も多くいて、いつもと雰囲気が違うように感じた。今後内容をパネルにまとめるので、ご覧頂きたい。
- (委員) パネルはどこで見れるのか。
- (事務局) 明德館での展示等を予定しているが、詳しくは改めてご案内する。また委員にもこの件についてお話ししたいと思うがどうか。
- (委員) マンチェスター大学の先生方の話には感銘を受けた。同じくエイジフレンドリーシティネットワークの承認を受けた秋田市とマンチェスター市の比較の話の中で、マンチェスターはシニアの団体や市民活動団体の協力が主であるのに対し、秋田市は民間企業、つまりパートナー事業者との連携やそのバックアップが特徴的であるというものがあった。秋田市のエイジフレンドリーシティにおいては、パートナーの拡大、特に様々なジャンルでのパートナーの拡大が一つのカギになってくると思う。マンチェスターの先生方にはパート

ナー制度自体の可能性や重要性を再認識する良い機会をいただいたと感じている。

(委員長)

秋田市のエイジフレンドリーシティの特徴が分かったということはとても良かったのではないか。ちなみに日本の事例は秋田市のみだったのか。

(事務局)

秋田市の事例のみであった。

(委員長)

そもそも日本でも横浜等の都市がエイジフレンドリーシティに取り組んでいると思うが、それらの都市との違いについてはどうか。

(事務局)

率直に、横のつながりがない状況ではあるが、それぞれの都市の力を入れるべき点をエイジフレンドリーシティの取組として取り入れていると思うので単純な比較は難しいと感じているが、参考にするべき点や学ぶべき点があれば、今後の取組に生かしていきたいと考えている。

(委員長)

いろいろな形でデータとして見えてくると次にどう進めていけばよいかというところにもつながる。講演は良い企画であったと思う。

(委員長)

他になれば議事(5)を終了する

(4) その他

(委員長)

議事の(6)「その他」について何かあるか。

(事務局)

事務局から2点、まずは、エイジフレンドリーパートナー表彰の選考委員について。表彰は今年度で3回目となるが令和4年度の取組の中から優れた取組を行うパートナーを事務局で選んだうえで、選考委員に選考していただく。選考委員については前回と同様でお願いしたいと考えている。委員の改選もあったので、来年度以降にこれまでの状況を踏まえ、選考委員についても再考したいと思うが今年度はそのように実施して良いか。

(委員)

異議なし

(事務局)

2点目は、次回の委員会の日程についてであるが、10月末から11月を予定している。改めて連絡したいと思うのでよろしくお願ひしたい。

3 閉会